

株主の皆様へ

株式会社 東芝

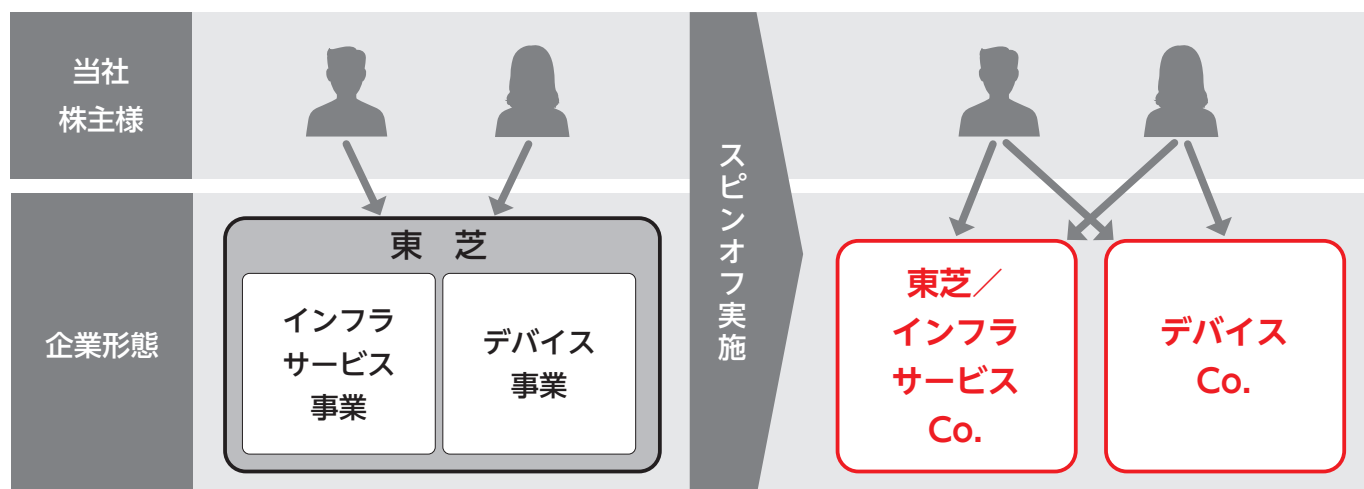
東芝グループの戦略的再編についてのご案内

当社は、デバイスCo.(仮称)を新規上場会社としてスピンオフ(分割)し、2つの独立した会社に再編する方針を決定いたしました。

本スピンオフを通じて、成長戦略の明確化、意思決定スピードの向上、コスト構造の最適化により各事業の競争力を強化し、持続的で利益ある成長を目指してまいります。

本方針は、お客様・取引先・従業員を含む全ての関係者の利益に貢献すると考えております。臨時株主総会招集ご通知と本ご案内をご検討の上、本方針の趣旨をご理解いただき、是非とも、議決権を行使していただければ幸いです。

スピンオフのイメージ図／スピンオフ後の各企業概要



<p>東芝/ インフラサービス Co.</p>	<p>エネルギー/社会インフラ/デジタル領域に特化した企業 【事業内容】 ・エネルギーシステムソリューション(発電システム、送変電・配電等)／ インフラシステムソリューション(公共インフラ、鉄道・産業等)／ デジタルソリューション/電池事業等 ・キオクシアホールディングス(株)の株式保有</p>
<p>デバイス Co. (仮称)</p>	<p>電子デバイスに特化した企業 【事業内容】 デバイス&ストレージソリューション (半導体、HDD、半導体製造装置等)</p>

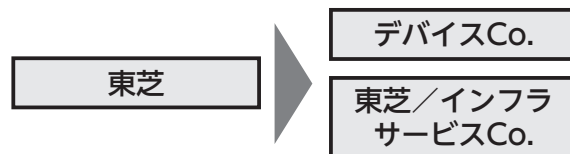
2月7日、8日に開催された戦略説明会「東芝IR Day」の内容や最新のIR情報はこちらの「投資家情報サイト」からご覧いただけます。



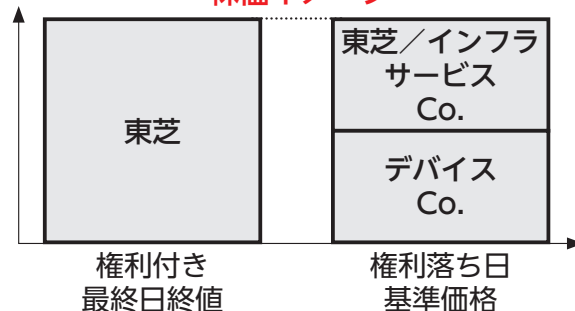
株主様への影響

- 分配基準日(2023年度下期予定)時点の当社株主様に対し、新規上場企業である「デバイスCo.」の株式を交付いたします。
- 株式の交付にあたり、**当社株主様には特段のお手続きは生じない予定です。**
- 本スピンオフに伴い当社株式は権利落ち日(2023年度下期予定)を経て、理論上はデバイスCo.株式相当分だけ当社株式価値が調整されることとなります。**理論上の合計株式価値に変化はございません。**
- スピンオフに向けた準備期間(2022年度、2023年度)においても、**従来同様に株主還元方針を着実に実行してまいります。**

株式の交付



株価イメージ



株主還元方針

- ・ 平均連結配当性向30%以上
- ・ 適正資本水準を超える部分の株主還元
- ・ キオクシア株式の速やかな現金化と手取り金純額の全額還元

スピンオフのメリット

- 各事業に特化した企業となることで、専門性のある経営体制を通じた迅速な意思決定や業界特性に合わせた資本・経営資源の配分が可能となり、それぞれの**市場機会を捉えた成長戦略や改革を通じた競争優位性の確保**が期待できます。
- また各会社株式の保有・売却を株主様は自由に選択することができ、**選択肢の増加を通じた株主様の選好に合った投資機会をご提供**いたします。

スピンオフのスケジュール



- 分配基準日は2023年度下期を予定しております。スピンオフの前後いずれにおいても、当社株式は従来どおり東京証券取引所において取引することができます。
- 法人税法上のスピンオフ税制を活用した再編を目指します。

本件に関する主なQ&A

Q1. スピンオフとは何でしょうか？スピンオフのメリットは何でしょうか？

- スピンオフは、自社内の特定の事業もしくは子会社を分離、独立させる組織再編行為のことです。
- スピンオフによる効果として経営の独立(中核事業への専念・迅速な意思決定)、資本の独立(資本政策の柔軟性向上)、上場の独立(個別事業に関心のある投資家の引きつけ)を通じた企業価値の向上が期待されます。

Q2. スピンオフが確定した時には、新会社(デバイスCo.)株式の分配について、何か手続をする必要はありますか？

- 分配基準日(2023年下期予定)時点での当社株主様に対して、証券保管振替機構を通じて証券会社の口座に新会社株式が分配されます。その際に特段のお手続きは必要ございません。
- なお分配基準日までの間、当社株式は従来どおり東京証券取引所において取引することができます。

Q3. 11月の公表時点では3分割のスピンオフ計画でしたが、3分割から2分割に変更した理由を教えてください。

- 11月の公表以降、株主様や関係各所とのコミュニケーションを踏まえて、スピンオフの準備を具体化する中で、3分割ではなく2分割とすることでガバナンス体制の実効性の担保、分割コストの大幅な削減、健全な財務体質の確保、上場審査での実務負担の軽減が図れると判断し、2分割へ変更することにいたしました。
- なお、3分割の方法の大きな狙いであったキオクシア株式に係る還元方針の実行を2分割の方法でも確実に担保するため、本再編の検討を進めることについて臨時株主総会で株主様の意志確認を諮るにあたり、議案の要領として明記いたしました。

Q4. 非公開化を含む他の選択肢ではなく、スピンオフを選択した理由を教えてください。

- 11月に公表の通り、戦略委員会としては非公開化を含むスピンオフ以外の選択肢も検討いたしましたが、スピンオフは他の戦略的な選択肢と比べより優れた価値創造の可能性があり、当社の株主様をはじめとするステークホルダーの皆様にもメリットをもたらすと判断いたしました。非公開化を実施すれば現在の株主の皆様にとっては株式の現金化が可能になりますが、一方で従業員の採用及び維持への悪影響や顧客離れなど、非公開化が事業に及ぼし得る負の影響が懸念されることに加え、当社には外為法、各国競争法の審査対象となる事業が多く、その実現には多くの不確定要素があるため、スピンオフのほうがより確実に価値の顕在化が実現できると考えます。

Q5. 過去にこのようなスピンオフの事例はありますか？

- 本スピンオフは政府が我が国の産業の競争力強化を目指して制定した「産業競争力強化法」の制度を活用することを前提としており、国内では2020年に行われた例がありますが、当社ほどの規模を持つ日本企業としては初めてのものとなります。
- 一方で海外では、電機大手シーメンス、化学大手デュポンなど、多くの企業が同様のスピンオフ制度を利用し、企業再編を行っています。

Q6 事業ポートフォリオの見直しについて教えてください。

- 当社グループにおける空調、昇降機及び照明事業は安定した収益基盤を有するものの、注力領域との関連性が弱く、成長ポテンシャルを実現できるパートナーとの再編や外部資本の導入によって価値を顕在化すべきと判断しました。
- また、当社の戦略的方向性を踏まえ、東芝テックの事業を非注力事業と位置づけました。東芝テック自身の中長期の成長プランを促進すべく、実務上可能な限り短期のうちに東芝テックと協働して参ります。

Q7 スピンオフ完了までの還元方針を教えてください。

- これまで通り、配当性向30%以上を目標とする基本方針に基づき、安定的かつ継続的な配当の増加を目指し、適正資本を超える部分については、スピンオフの円滑な遂行を妨げない範囲で自己株式取得を含む株主還元の対象とします。また、本事業計画の円滑な遂行を前提に、今後2年間で3,000億円程度の株主還元を想定しています。

Q8 2分割になっても以前と変わらずキオクシア株式を現金化した際の手取り金純額の全額を還元する方針ですか？

- 以前と変わらず、当社が保有するキオクシア株式については、実務上可能な限り速やかに現金化し、その手取り金純額を適用法令の範囲内で全額株主還元に充当する方針です。

Q9 スピンオフすることで研究開発体制はどうなりますか？

- スピンオフ完了時には、基礎研究を含む各事業の固有領域については東芝／インフラサービスCo.とデバイスCo.に分離する形で、その機能を各社に実装し、各社にて、基礎研究から製品化に至る一貫した研究開発の機能を果たしていくことを基本とします。
その上で、両社に共通な基盤領域は、東芝／インフラサービスCo.に一体で配置し、両社へ成果を提供できるように契約に基づき共創関係を維持します。

Q10 従業員の反応は？ 従業員の流出の懸念はないでしょうか？

- 今回の戦略的再編は、株主価値の向上のみならず、従業員にとっても業界内でより強い企業体へ変革を図ることで、技術専門性の向上、自己成長機会の獲得といったメリットがあると考えています。
- 従業員へはトップメッセージをはじめ、今回の戦略的再編の意義について丁寧なコミュニケーションを行っています。

(注意事項)

- ・本書は、当社の戦略的再編に関する情報提供を目的としてのみ作成されたものであり、日本、米国その他の地域において、当社、当社の子会社その他の会社の有価証券に係る売却の申込みもしくは購入申込みの勧誘を構成するものではありません。
- ・本書には、当社グループの将来についての計画や戦略、業績に関する予想及び見通しの記述が含まれています。